

# 文京区の「地蔵尊」そして「坂」巡り

木下 勲(平成 30 年 10 月 30 日記)

「文京区的地蔵尊めぐり」をしませんか？とホームページに掲載したところ、応募して下さったのは、全部で 8 名でした。日本においては、平安時代以降、極楽浄土に往生の叶わない普通の人たちは、必ず地獄へ堕ちるものという信仰が強まり、庶民は街角に地蔵（菩薩）を置いて祀り、地獄における責め苦からの救済を希求するようになりました。このようなお地蔵さんは、町の人たちと共生する街の守り神であり多くの人たちの日常生活に溶け込み、信仰の対象になりました。今回は、少し毛色の変ったお地蔵さんが集まる文京区のお地蔵さんを回ってみることにしました。

○10月29日（月）素晴らしく晴れ上がった東京の空の下、男性4名（今岡、和久理、小林、木下）、女性4名（富永、成相、野坂、与沢）計8名が有楽町線江戸川橋駅に11時に集合しました。参加者に、今日のコースと大まかなスケジュールを説明してスタートしました。

○まず、最初に訪れるのは江戸川駅に近くの地蔵通り商店街の入口にある「子育て地蔵」です。この「子育て地蔵尊」は母親の子育てに関する願いと火災の無いことへの感謝の表れです。火災がなかったことを感謝するという点では、火事の多かった江戸時代の世相を表していると感じました。



○次に、地蔵通りを少し歩いて左に折れ、新目白通りと神田川を渡って、坂道の多い小日向地区に入ります。先に述べたように、今回のメインテーマは「地蔵巡り」ですが、隠れたテーマとしてこの地区に多く存在する「坂」にも興味があります。

この一帯にはお寺が並んで立っており、その一つ日輪寺に「甘酒地蔵」が座っておられました。モデルは参道で甘酒を売っていたおばあさんらしいですが、咳で苦しんでいる人々を救いたいという故人の志を叶えるべく関係者らによってこの老婆にそっくりな「甘酒婆地蔵尊」は造られたという話です。



○日輪寺のおとなりに本法寺というお寺がありました。その小さい看板に夏目漱石の菩提寺と書かれており、新しい発見もあって、一同感動しました。お寺群を抜けて、私たちは「荒木坂」を上りました。荒木坂の上には、キリシタン屋敷があったようで、禁制教迫害の看板が立っていました。



○荒木坂には閑静な住宅街が並び、こんなところに住みたいねと話ながら歩きました。荒木坂から茗荷谷へ下る坂は「蛙坂」とあり、谷の湿地帯には蛙が多かったことに由来するようです。

「蛙」を家に帰るという意味で「復(かえる)」と書いているのは、江戸っ子の洒落でしょうか。

○蛙坂を下りて地下鉄丸ノ内線のガード周辺が茗荷谷です。ここは小石川台地と小日向台地の間の谷あい、昔、茗荷が群生していたことによるといわれています。私たちは、丸ノ内線から少しそれて、拓殖大学の方へ登りました。大学は、立派な建物が並んでいて、整備された大学です。ここの学食で昼食を取りました。最近建てられた建物でしょうか。近代的な建物の地下一階に学食があり、大勢の学生たちに交じって、じさんとばあさんが食事をしました。さすがに学食、お値段は学生標準、とても安く頂くことが出来ました。



(拓殖大学門で門衛さんに入场許可をもらう)



(拓大の初代学長桂太郎像の前)



(最近建った学舎)

○次のお地蔵さんは拓大の近所の林泉寺にある「縛られ地蔵」です。昔から盗難や失せ物があると、地藏尊に縄をかけ、願いがかなうと縄をほどくと言う変わった風習があり、現在も荒縄で全身をぐるぐる巻きにされています。お賽銭を入れて、一本の縄をもらうシステムは、面白かったです。



○ここから春日通りを渡り、桜の名所・播磨坂の桜通り経由して、さらに千川通りを渡り、小石川植物園へ行きましたが、生憎、月曜日は定休日でしたので、昔、徳川綱吉が若い頃住んだという白山御殿に由来する御殿坂(別名:富士が望めるので富士見坂ともいう)を上り、白山通りに面した「ほうろく地蔵」に向かいました。このお地蔵さんは、なんでも頭の病に効くと言われています。



(御殿坂にかかる看板)



(ほうろく地蔵の頭には灼熱のほうらくが乗せられています)



○次のお地蔵さんは浄心寺にある「雷除け地蔵」です。墓地の片隅にひっそりと置かれていたましたが、落雷の多い最近では、お助けを借りることが多いのではないのでしょうか。



(雷除け地蔵の隣には、現代的なお地蔵さんも立てられていて、新旧地蔵が混じるお寺でした)

○最後は、咳止めからし地蔵です。伝説によれば、正光寺の僧・覚宝院が、咳の病を癒すため自ら座禅姿の石像を刻みここに安置したという。覚宝院がとうがらし酒を好んだことから、とうがらしを供え諸願成就を願ったそうです。お地蔵さんを安置した祠が老朽化したためか、とてもモダンな小屋に入っておられたので、一同は驚きました。



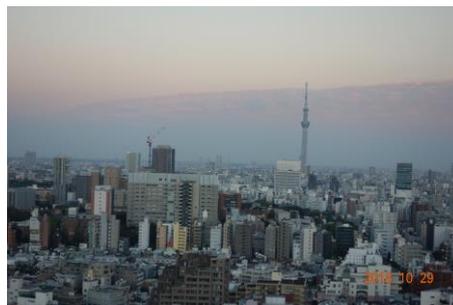
○少し、時間的に余裕があったので、白山通りを東に歩き、東京大学キャンパス内を散歩しました。さすが東大だけあって、建物はクラシックで、格調高い雰囲気でした。学生たちの往来は多くなく、私たちもゆっくりと構内を歩いて中の様子を見たり、途中でベンチに腰かけて、大学キャンパスで学生時代のことを思い起こし、暫し都会の喧騒から解放されました。



(左:安田講堂  
上:古色の学舎)

(赤門前に勢ぞろい)

○そろそろ陽も傾き始め、お腹もすいてきたので、あと一つ予定していた歯痛地蔵は取りやめて、反省会の会場である「文京シビックセンター」に向かいます。予定されたレストランが 17:00 開場となるので、15 分ほど、センター25 階の展望台からの眺望を楽しみました。丁度日暮れ時で、西の方には、美しいシルエットを映す富士山が見え、新宿、池袋、スカイツリーなど 360 度の展望を楽しみました。美しい景観は、私たちの散策の疲れを吹っ飛ばすに十分でした。



○反省会場のスカイレストラン「椿山荘」も 25 階にあり、窓からの見晴らしは抜群、一同は一日の散策の反省とともに、完走できたことを互いに喜び合いました。8 人のうち誰一人「疲れた」といわず、最後までペースを崩さずに歩けたことは、80 歳のハイキング仲間としては珍しいのではないのでしょうか。一時間半余り、賑やかにおしゃべりをして、再会を期して、後楽園で別れを告げました。



(東京ドームの夜景)

(全員で乾杯、「完走オメデー！」) どなたも疲れた顔をしていませんね。歩行距離約7km

おわり